



「ブルーフラッグ(BF)認証」は、世界のビーチ共通の「安心のしるし」である。水質、環境教育と情報、環境管理、安全とサービスに関する厳しい基準を通じて、ビーチやマリナにおける持続可能な発展の実現を目指す国際環境認証。認証を取得しても、1年ごとに更新があり、基準に満たなければ取り消されるから厳しい。地域が一体となつてまちづくりを進め、真の地域力を発揮するのは認証取得後からである。

現在、世界50の国と地域、約4000カ所で認証されているBF認証を今年4月、神奈川県鎌倉由比ヶ浜海水浴場と福井県高浜町和田地区が、アジアで初となる取得を同時に果たした。

NPO法人湘南ビジョン研究所は、4年程前から地元の仲間たち10名ほどでビーチクリーンの活動から始まり、「みんなが湘南の未来を創ってほしい」という思いの

もと、BF取得の目標を掲げ、市民、生活者、企業、NPO、行政が互いに連携し、自立的に地域が一体となつたまちづくりの実現を目指すステップとした。そして、10年後の湘南地域理想のま

ちづくりビジョンとして、2012年4月から10カ月間をかけ、40名の市民ボランティアによる「湘南都市構想2022」を策定した。今年度の事業計画は、鎌倉市と環境教育を推進し、市民や企業などへのBF認証の浸透を深め、市民を巻き込んだ活動を展開していく。他に、「誰でも先生、誰もが生徒」をコンセプトに、湘南のヒト・モノ・コトを生かしたまちづくりを学ぶ「共

ブルーフラッグ認証と これからの地域づくり への期待

—神奈川県鎌倉由比ヶ浜海水浴場と
福井県高浜町和田地区—

鬼沢 良子
きざわ りょうこ

育」の場としての湘南大人の大学の開校である。

一方の福井県高浜町は、若狭高浜観光協会が中心となり、「ブルーフラッグ認証取得活動を通じて海岸維持管理体制の再構築」という事業名で、26・27年度の環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」を利用して、協働の取り組みを実現していった。高浜町は、透明度の高い海と白い砂浜で、かつては年間100万人ほどの観光客

が訪れる観光地だったが、近年では6分の1になり、過疎高齢化も重なり、海岸清掃や管理が不十分なうえ、水上バイクや海浜の不法占拠などという地域課題を抱えているため、BF認証取得活動を住民協働の重要な機会と位置付けた。

本事業の報告書によると、ポイントは、①住民協働によるプロセス形成、②必要なステークホルダーの参加と対話、③高浜町全体の意思を図る組織と、実行部隊組織の形成、の3つとある。この事業は、環境省と国際連合大学が共同で運営する環境パートナーシップ拠点であるGEOCと全国に8つある地方環境パートナーシップオフィスの伴走支援があり、政策に絡みながらどのように協働の取組みを加速化させていくかという課題がある。

4月14日の夕方、高浜町がBF認証取得したことをニュースで知り、この事業の開始時からいきさつを知っていた私はとてもうれしかった。また、2020東京オリンピック・パラリンピックのセーリング会場に決まった湘南地域は、これから4年間の活動が湘南都市構想2022と重なり、併せて推進していくことが期待でき、とても楽しみである。

「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長」